

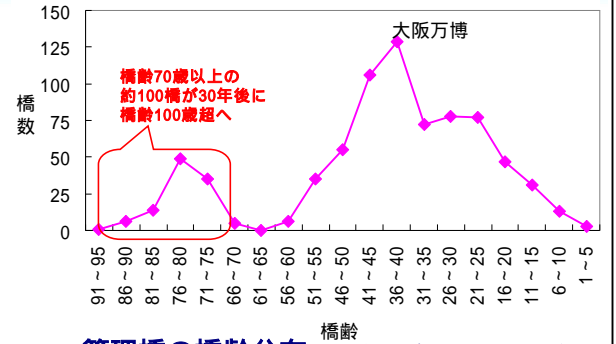
大阪市の橋梁長寿命化修繕計画

<背景・目的>

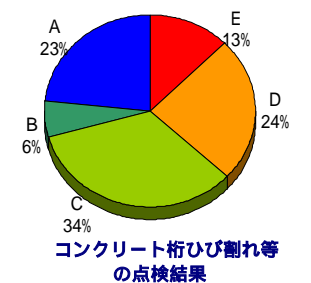
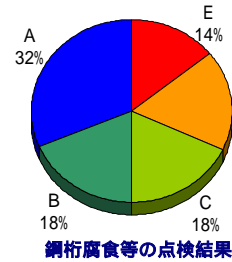
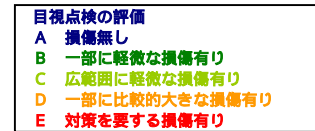
大阪は、淀川や大和川の河口部に発達してきた街であり多くの橋が架けられてきたことから、大阪の橋は「なにわ八百八橋」と呼ばれ、市民の生活や街の発展を支える重要な役割を担ってきました。大阪市建設局は、平成22年4月1日現在、764橋の道路橋を管理しています。このうち、建設後50年を経過する橋は、約160橋で約20%を占めています。20年後には、この割合が約70%となり、**橋梁の高齢化が急速に進行**します。

このような背景から、今後、増大が見込まれる **橋の補修・架替に要する費用を縮減**するために、多大な費用を要する架替が一時期に集中しないように**橋の長寿命化を図る**必要があります。橋の長寿命化を図るためには、損傷が大きくなってから対策を行う「事後保全」ではなく、**損傷が大きくなるまでに予防的に補修を行う「予防保全」**を行う必要があります。

そこで、大阪市では計画的に予防保全を行うために、長寿命化修繕計画を策定します。



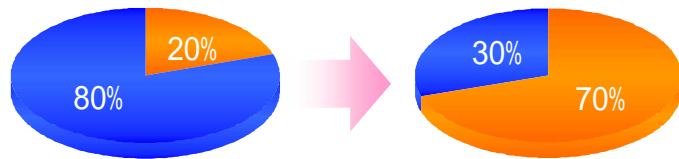
管理橋の橋齢分布 (平成21年4月1日現在)



これまでの点検における健全度の状況



大阪市最高齢 本町橋(97歳)



2010年度 約20%(約160橋)

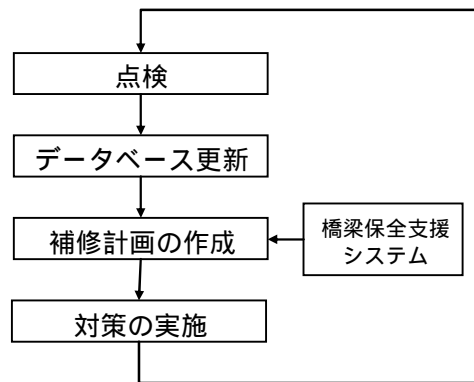
2030年度 約70%(約530橋)

建設から50年が経過した橋梁の割合

<橋梁管理の基本方針>

大阪市は、計画的に予防保全を行うために、点検、データベース更新、補修計画の作成、対策の実施というサイクルで、橋梁管理を行います。点検は、日々の道路パトロール時の日常点検と、橋に近接して行う詳細点検を行っています。補修計画の作成にあたっては、橋の将来の状態を予測し、最適な補修時期を導き出す橋梁保全支援システムを活用しています。

橋梁管理の流れ

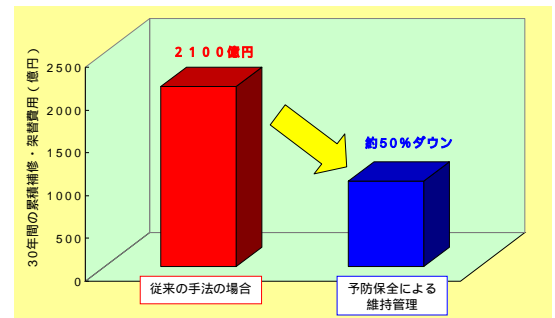


パンフレットダウンロードはこちら

<http://www.city.osaka.lg.jp/kensetsu/page/0000042200.html>

予防保全の効果の試算例

例えば、今後30年間の補修・架替に要する費用は、戦前に架けられた70歳以上の高齢橋約100橋を全て架替える場合に対し、橋を定期的に点検、維持、修繕することによる延命化でコスト縮減を図る予防保全を導入することができた場合には、約50%程度()の費用の削減が可能となります。



将来費用の予測結果は、現状の補修関連費用が今後も同程度で推移することを想定した場合の推計値である。

<H21年度策定の計画について>

大阪市は、建設局が管理する全ての橋(764橋)について、長寿命化修繕計画を策定します。

平成21年度は、平成20年度までに策定した高齢橋、長大橋()、高架橋など293橋に続き、一般橋など411橋を加えた704橋の長寿命化修繕計画を策定しました。

このうち、平成22年度は長柄橋の耐震対策やその他の橋の補修等を実施します。

~長柄橋~



高齢橋：建設から50年以上が経過した古い橋

長大橋：橋の長さが概ね200mを超える規模の大きな橋

<今後の方針>

平成22年度以降も引き続いて、残りの橋についても計画を立てていき、市民の皆さんの安全を確保するとともに、補修・架替に要する費用の縮減に努めていきます。

本計画は、平成22年3月段階のものであり、今後も毎年、点検の実施に伴い更新していきます。

<意見聴取した学識経験者>

この計画は、「大阪市橋梁保全更新計画検討会」より助言を頂いて作成しております。

[大阪市橋梁保全更新計画検討会]

- 渡邊 英一 京都大学名誉教授
- 古田 均 関西大学教授
- 田中 みさ子 大阪産業大学准教授

